

Library News



京教図書館 News

2008

12

私のすすめるこの1冊…… 齊藤 百合子（音楽科 准教授）

小泉英明 編著 『恋う・癒す・究める 脳科学と芸術』

音楽科などの芸術教科が、常に存続の危機にさらされているという事実をどのくらいの人が知っているだろう。今回の学習指導要領改訂では、なんとか音楽科や美術科の時間数は従来通り確保されたが、10年先の次の改訂ではどうなるかわからない。芸術教科は常に隅へ追いやられている。算数や国語などが「主要5教科」、音楽や美術が「副教科」と呼ばれているのもその典型であろう。「日本の子どもの学力が危ない！」などと世間で話題になるたびに注目されるのは、算数や国語などの「主要教科」である。しかしそれらと同じくらい、音楽や美術も子どもを育てるためには必要不可欠な教科であり、その両方をバランスよく教育課程に組み込むことが人間的成長を促すのである。

しかし私のような「音楽の立場の人間」が教科存続を訴えたところで説得力はなく、そんな中出会った本がこの「脳科学と芸術」である。しかもこの小泉英明という人物は、芸術分野の人間ではなく、脳科学者という科学の最先端に位置する研究者というところがポイントである。つまり脳科学の知見から芸術教育の必要性を訴えているという、私たちからすると非常に心強い存在なのである。小泉氏は昨今の教育が「知育」ばかり重視されていることを危惧している。脳科学の立場から言えば、外側の新しい皮質にいくら知識や技術を詰め込んでも、やる気や意欲を起こすための原動力、つまり「パッション」がなければ何も始まらないと。その「パッション」は古い皮質にあり、それを育むのが「芸術」であるという。音楽を聴いたり、奏でたり、絵を描いたりすることは古い皮質を活性化し、パッション（意志・情動）を育むのである。すると生きる力や知的欲求が湧いてくるというわけである。本書には、二万年も前から「美しいもの」に魅了されてきた我々の先祖の話から、脳に損傷を抱えた人が芸術活動を通して日常生活を取り戻していく事例まで、芸術をとりまく驚くべき世界が描かれている。

一見学術書のように難しいのでは？と思うかもしれないが、興味深い事例が多いため、あっという間に読み進めることができる。そしてすべてを読み終えたあとは、人間と芸術はとても深いところにつながっているのだということを実感することができるだろう。音楽科や美術科の学生さんはもちろんのこと、芸術教科以外の専攻の学生さんにぜひ読んでほしい一冊である。

『恋う・癒す・究める 脳科学と芸術』 編著：小泉英明 発行所：工作舎
出版年：2008年11月 ISBN-13: 978-4875024149 定価：3990円
購入手続き中

■ 図書館からのニュース

1. 論文検索・収集法講座のご案内

雑誌論文の検索から入手方法までを、パソコンを用いてデータベース CiNii を中心に実習形式で説明します。12月の開催予定日時は下記のとおりです。

下記の日時に図書館カウンター前にお越しください。予約は不要です。
ご参加をお待ちしています。

日時	12月4日(木) 13:30-14:00	12月8日(月) 11:00-11:30
	12月16日(火) 15:00-15:30	12月19日(金) 15:00-15:30

上記日程以外での参加を希望される方は、カウンターまでご相談ください。

2. 「うた」と「おはなし」の会開催について

例年10月に開催しています「うた」と「おはなし」の会は、今年は試みに12月に開催します。「冬」や「クリスマス」をテーマに楽しいお話しや歌、遊びを企画しています。パネルシアター、手遊び、エプロンシアターなど、親子で一緒に楽しみましょう。

開催日: 12月14日(日) 11:00~12:00

場 所: 附属図書館2階 視聴覚室

URL <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/ohanashi2008a.htm>



3. 第13回教科書展が終わりました

今年度は「中等教育用教科書(数学編)」と題した教科書展を11月6日から22日までの期間開催しました。期間中は、地域の方々、本学教職員・学生、また、最終日の22日にはオープンキャンパスも開催され、延約300名の方々が訪れました。

今回の展示に際しては、数学科にお世話になり、特に、守屋先生が中心に準備を進めて下さり、ご協力いただきましたこと、厚く感謝申し上げます。

4. 京都市立中学校「生き方探求・チャレンジ体験」に協力

11月10日から13日までの4日間、藤森中学校の2年生2名が図書館で勤労体験としてカウンターでの貸出・返却、書架の整理等の実習を行いました。

5. 12月の休館について

12月10日(水)館内整理及び蔵書点検作業のため休館とします。
詳しくは、最終ページの「図書館開館スケジュール」をご覧ください。

■ 論のくちび理のむすび・・・伊藤 悦子(教育学科 教授)

「都道府県における人権教育・啓発計画の現状と特徴」

伊藤 悦子・布林ジャー*1 京都教育大学紀要 No.113 : pp.27-38

学校で行われている人権教育は、文部科学省が全国的な指針を示してこなかったこともあって、地方によってばらばらである。「人権教育論」などの授業で、各自の人権教育に関わる体験を出し合うとその違いの大きさに愕然とする学生が多い。そうした人権教育の地方格差と、全国的な状況を知りたいと思って、今回、中国の留学生で内モンゴル出身の布林ジャーさんと伊藤が、こうした各地方自治体の人権教育に関する基本計画を収集し、分析したものが本論文である。

現在の日本における人権教育や啓発は、2002年人権教育・啓発基本計画に基づき、各地方自治体の人権に係わる基本計画を策定して推進している。基本計画を収集してみてわかったことは、計画が教育計画であるというより、行政計画であったことである。教育と各地方自治体の人権に関わる施策が分かちがたく結びついて推進されていた。また、計画を実施するための庁内推進組織が構築されているが、数値目標の設定や評価機関の設置を行っているところは多くない。これは人権教育の評価が困難であることも関連している。さらに、個別課題における地方的特徴も検討した。同和問題を政策の重要課題としているところは「西高東低」であり（冬の気圧配置ではないが）、多くの地方で同和問題は基本計画に位置づけられていることが確認された。だが、同和問題をも含めた「人権教育」という概念が示されているかということ、同和教育をはじめとした様々な人権の課題が提起されているものの、個別課題や取組の羅列という域を出ていない。東京や大阪が総合行政としての人権行政や人権教育を目指していることまではわかったが、内実については今後の課題であることも明らかになった。

*1 京都教育大学教育学研究科学校教育専攻（2007年度修了）

全文は図書館HP「京都教育大学紀要」で、ご覧いただけます。



ちょっとブレイク!

「ホームレス大学生」 田村研一 著

発行所：ワニブックス 定価：1,365円 発行年 2008年10月

皆さんご存知の方もおられると思いますが、あのベストセラーになった「ホームレス中学生」を書いた麒麟の田村裕さんのお兄さん（研一さん）は、実は京都教育大学を卒業されています。先日、そのお兄さんが「ホームレス大学生」を出版され、その本を寄贈のため来館されました。

「ホームレス大学生」は、お兄さんからの視点で書かれた『ホームレス中学生』のアナザーストーリーです。父親の「解散」宣言は、正にお兄さんが京都教育大学1回生の夏の出来事だったのです。続きは本を読んでくださいね。図書館にあります。

■ 図書館開館スケジュール



(通 常)

開館時間 : 9:00

閉館時間 : 21:00

一部期間は 17:00 に閉館します

下記カレンダー「~17:00」と記載

12

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
	1	2	3	4	5	6
						休館
7	8	9	10 整	11	12	13
休館			休館			~17:00
14	15	16	17	18	19	20
休館						~17:00
21	22	23	24	25	26	27
休館		休館	~17:00	~17:00	~12:00	休館
28	29	30	31			
休館	休館	休館	休館			

1

日 SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
				1 祝	2	3
				休館	休館	休館
4	5	6	7 整	8	9	10
休館	休館		休館			~17:00
11	12	13	14	15	16	17
休館					休館	休館
18	19	20	21	22	23	24
休館						~17:00
25	26	27	28	29	30	31
休館						~17:00

12月6日(土)は入試のため休館します。

12月10日(水)は館内整理のため休館します。

12月23日(火)は祝日のため休館します。

12月24日(水)から26日(金)まで短縮開館します。26日は12:00までです。

12月27日(土)から翌年1月5日(月)まで年末年始のため休館します。

1月7日(水)は館内整理のため休館します。

1月16日(金)から18日(日)までセンター試験のため休館します。

次号の1月号は、『図書館ニュース』100号記念号の予定です。

京教図書館 News No. 99 2008年12月号

編集発行：京都教育大学附属図書館

発行日：平成20年12月1日

内容に関するお問い合わせ先：

附属図書館 (内線 8176)



京都教育大学